



われかれ わがやま まはり ところどころ さいはひ くだ とき したが ふうら これ さいはひ  
 我彼らおよび吾山の周囲の處々に福祉を下し時に随ひて雨を降しめん是すなはち福祉  
 の雨なるべし

—エゼキエル書34章26節—

And I will make them and the places round about my hill a blessing; and I will cause the shower to come down in his season; there shall be showers of blessing.

—EZEKIEL CHAPTER 34 26—

# 新生

第 46 巻 号  
 夏 生 会 広 報

## 神の不在と祈り 杉山修一

欧米を中心に新しい無神論が影響力を持ち、宗教とりわけ一神教の宗教に批判がある。原理主義的信仰がもたらす他者への無理解、不寛容が結果として平和を脅かし、いのちが尊重されない現実を生みだしているとの認識から、積極的に神を否定する。すべての生物は単なる遺伝子の乗り物に過ぎないという「利己的な遺伝子」で有名な科学者、R・ドーキンスは「神は妄想である」という本であらゆる宗教を批判し無神論の立場を主張する。この立場を無神論の科学者であったが現在は神学者、聖職であるA・E・マクグラスが「神は妄想か？」の中でドーキンスの極端な意見に反論している。科学と宗教という難問をどのように受けとめるか、現代社会、特に宗教に関わるものにとって大きな課題である。私は神の存在を信じるものだが科学的に証明することについては不可知と考える。そして、神は直接的に歴史や世界に介入していない「神の不在」を直視して、この世界の現実とどう向き合い、キリスト教信仰の上に成立した働きはどうあることが望ましいかを問わなければならぬと考えている。

神学校の臨床牧会訓練で新生会を訪れ、老人たちと出会い、学生を中心とする学習ボランティアグループ「人間の学校」を主宰してきた。生きた人間の現実から生きるこの意味を学ぶことが大切だと考えた。人間の生が根源的に問われている状況から言葉を紡ぎ出すことが必要と考えた。家に帰りたくて風呂敷包みを持って毎日玄関に立つ帰る家のない老婆の現実とどう向き合うのか苦悶しながら私も玄関に立ち尽くしていた。

たとえ世界がどのように悲惨で、人間が苦難の中においても、神は直接働きかけることはない。D・ボンヘッファアの言うように、世界を人間に委ねている。シモーヌ・ヴェイユは「神は存在しない、と思いつつ祈る」と言った。ヴェイユの逆説的告白の持つ厳しさと希望をキリスト教の老人施設である新生会に連なる者として「神の不在」という現実を直視しつつ祈り求めたい。

### 杉山修一

一九四八年生まれ。

日本聖公会退職司祭。渋谷聖ミカエル教会囑託、香蘭女学校チャプレン、新生会評議員、新生会後援会副会長。



### かくれた流

水けもない地に

みどりしたたる木立こたたらがある

怪しんでしらべると

ひげ根が、地下の流れにふれていた

あの精力はどうしてつづく

あの仕事はどこから生まれる

怪しんでしらべると

自由に、豊富に

隠れた流れから汲んでいた

かくれた流れにひげ根が届くと

ひでりのときほどよく繁る

後藤静香著

「天よりの声」より



原 慶子

### 緑の彼方へ

今年の緑はいきおいがある。前の冬は例年より寒く、雨も雪も少なく、ひどく乾燥していた。日々の生活もコロナウイルスにおびえる毎日であるおもしろい感じもなく、人々はじつと寒さに耐えているようだった。寒暖のはげしい春の訪れで温度差に適応できない石南花やいちごの木はやつとのこと花芽をつけた。一方で花芽は少なかつたがぎつしりと葉におおわれ、背丈がぐんと伸びたつつきもあつた。今年の初夏は元気のいい新緑に心底慰められている。適度に雨も降り、緑はますます生き生きと輝いている。魂を緑いっぱいにして祈ると、緑の彼方に希望が見えてくる、というか夢はかなえられるという確信がやわらかく魂を満たしてくれる。この感覚はコロナパンデミックの間も失われることなく、ずっとわたしのヴィジョンを支えてくれた。わたしのヴィジョンは今のところ「彼方」にあるが実現に向かつて刻々と前に進んでいる手応えがある。最近「彼方」が気になり出した。「彼方」は未来にある。レヴィナスは「存在の彼方へ」、デリダは「根

元の彼方に」、ミラン・クンデラは「生は彼方に」、キム・ジハは「長い暗闇の彼方に」そして権代敦彦は「青空の彼方に」。各々彼方に、今という時の流れの中ではかなえられない切実な望みを祈り、託したかったのであろう。レヴィナスの彼方は何だったのか、レスポンシビリティ（責任）で結ばれる人と人との関係が社会の土台になること―平和―。デリダにとつての「彼方」は、人間が根源的に思想すること―本質を極めること―。ミラン・クンデラは、人間が自由に自分の意志を生きたること―真実の生―。キム・ジハの彼方は一番重く感じられる。キム・ジハ（一九四一―二〇二二年）は一九六〇年代から反政府運動のリーダーであり、投獄や死刑判決を受けながら地下活動で韓国の民主化運動に身を投じた天才詩人である。「長い暗闇の彼方に」は彼の最初の著作（詩集）である。彼の青春時代は、軍事化する韓国政府に対する、命を賭けた抵抗運動（闘い）であつた。二一世紀になつてからの世界中の軍事化と強欲資本主義の急進化は半世紀前をうわまわっている。「愛の喪失、対象に対する無関心、倦怠こそすべてわれわれの墓場であると私は思う」キム・ジハ

「福祉の文化化」という原慶子理事長のフロンティアスピリットにあらためて深い感銘を覚えたのを機に、自身のライフワーク「場づくり」を「文化」という視点で見つめ直し、表面だけでなく、その裏側や奥底にあるものを洞察し、論考してみたい。

「文化」=「culture」は、「耕す」を意味するラテン語「colere」に由来し、初めは土地を耕す意味で用いられていたが、英語圏で「心(精神)を耕すこと」の意味に転じ、「文化」や「教養」という意味を表す語となった。という背景を踏まえ、「培養」という認識を「前提」に考察したい。

「場」は、様々な要素を含むが、場づくりの側面をいくつか粗上に載せたい。場は、場所とは異なり、個人の中に存在しながら他者とも共有される―選択的に知覚された時空間の表象である。場は、目的、必然的な成り行きといったある方向性を持つており、他者と共有されるものが成立の前提とされる。場そのものには形も質量もなく、従って直接的な知覚の対象とはならないが、我々は、その中に存在することで、場の状態に関わる情報を感じ取ることで、より、その場が存在していると認識できる。

「文化」として培養する「場の成立要件」、「場とならざるもの」を分ける条件とはいったい何であろうか。

また、「場」による関係性の枠組みと、「場」によらないものとはどこが異なるのだろうか。場の成立要件としては、(1) 個々のメンバーが主体性を持ち、柔軟に対応しながら協力し、相互に連携して目標を達成することができる。(2) この関係性を結ぶための「非言語的情報」が伝達されている。(3) そうした関係性によって生み出された全体的方向性が個々の振る舞いに方向性を与え、その振る舞いが様々な環境要因の意味を汲みながら場の意味を再

論壇

「文化」としての「場」づくり

西山 信之

構成していく、この循環的プロセスが存在すること、の三つが少なくとも必要と考える。

「非言語的情報の伝達」が、なぜ、場を培養(文化化)する要件なのか。

メールやブログ、LINEなどコミュニケーションツールが多岐に渡っている今は、情報伝達の頻度が高そうに見えて、かえって相手のことがわからなくて悩んでいる人が多いようである。オンラインで使用される語彙

数は、日本人が日常的に話したり、聞いたたりする語彙数の五分の一にし

かならないという研究結果もあり、言語情報に依存した意志伝達手段の限界を露呈した事象と捉えられる。

「話せばわかる」は大ウソ。「なぜ、相手は自分をなかなか理解してくれないのか?」「なぜ、いつもあの人には話を通じないのか?」かつて『バカの壁』で大ヒットを記録した解剖学者の養老孟司氏は、自分と他人には理解の「壁」が存在し、ときにそれが邪魔をしているのだと、最新刊『他人』の壁』の中で語っている。

「前提の違い」という観点から、

お互いがわからない理由について、次のように語っている。前提が違う人に、いくら言葉を投げても、相手に刺さるはずがない。人は前提の違いをされると錯乱する。

「話がかみ合わない」ことは日常の場でよくあることだが、その多くは前提の違いにある。違うという認識がないままいくら議論を重ねても、理解できないのは必然的といえる。

「前提」とは、氷山に例えると、水面下に隠れた部分で、お互いその部

分は見えていない。氷山の一角を対象にやり取りし合っても通じ合うはずがない。意識されていない広大な前提の部分が違っているのに、その前提が違うということを考えないで議論してもわかり合えるはずがない。

「氷山の水面下」を理解し合う、場のチカラを培養するには、「システム思考」というアプローチが有効だ。複雑な状況の中で、視野を広げて、様々な事象のつながりや背景にある構造・影響関係への理解を深めながら、より根本的・本質的な理解に向け働きかける全体論的な手法である。

「非言語的」コミュニケーションは、個人やコミュニケーションの創造性や表現力を促進し、多様性や包括性を尊重する場を培養する。異なる文化やバックグラウンドを持つ人々が参加できる場を提供することで、相互理解や対話が生まれ、豊かな文化的な環境が形成されやすくなる。

「芸術と表現の促進」は、人々の心を打ち、感情や思考を表現する媒体となる。文化的な場では、芸術作品や表現活動が積極的に促進される。これにより、人々は自己表現の場を持ち、他者との共感を通じてより深いつながりを築くことができる。

「文化としての場づくり」は、持続可能で長期的な視点で、忍耐強く「培養」することが重要と考える。



新型コロナウイルスによる臨時特集⑭

### デジタル全体主義に対決する「人間精神の尊厳性」

原 慶子

#### 「デジタルテクノロジ」の暴挙と「マイナンバー法」

コロナパンデミックの強引な行政指導が緩和されたと思ったら、次にはとうとうマイナンバー法など（改悪）関連法が六月二日、参院本会議で可決、成立しました。マイナンバーについては、現在トラブルが続出しています。コロナ騒動とマイナンバーは、デジタルテクノロジ全体主義政策の一貫です。コロナ騒動はコロナパンデミックという例外状態を用いて「バイオセキュリティ（Biosecurity）」という統治（政治）装置を、世界的支配形態にしようという物です。「それは諸政府がこれまで実現に成功してこなかった実験、すなわち、学校、大学、あらゆる公共の場において、物理的にそこにいるということの代わりにデジタル装置が置かれ、物理的にそこにいるということのほうは、私的圏域に家の壁の内側にしかるべき対策を施しつつ隔離されたままにされる、という実験である。」（私たちはどこにいるのか？政治としてのエピソード）「ミック」ジョルジョ・アガンベン（青土社）。マイナンバーはデジタルテクノロジを用いて全国民のデータをデジタル化し、人々をバイオセキュリティの管理下に置こうという

物です。マイナと保険証の一本化の政治の本意はどこにあるのでしょうか？生物学（医学）と経済学を総合（相互依存）へと近づかせ、「国民の生ける価値の一覧」を作成して『国民の生物学的身体』を配慮（干渉）することです。「ここから、医学の意味と任務が根源的に変容することになる。医学はいっそう緊密に、国家の諸機能と諸機関へと統合される。」すなわち住民の衛生状態を経済的利益の条件にすることです。「ホモ・サケル 主権権力と剥き出しの生」ジョルジョ・アガンベン（文芸社）

日本において政治的にそのような方向を強化すべく、スピーディーに閣議決定されたのが、「復興庁」と「デジタル庁」です。閣議決定は、国家行政組織法の適用が除外されており、「つまりは行政が法を凌駕する事態―例外状態」を維持するための政治手法なのです。アガンベンは「例外状態は民主主義国家を全体主義国家へと変容させることを可能にするメカニズム（同上）と言っています。憲法による「三権分立」（立法権・行政権・司法権）の原則を無視して、法（立法権）を飛び越えて、行政権力が「コロナ危機」を口実に暴走して行きました。「例外状態とはつまり、憲法上の保障の数を単純に宙吊りにするということである。」（同上）

二〇二三年、二一世紀初頭、世界中がデジタルテクノロジの脅威に晒され、人間本位の民主主義を失う瀬戸際にいます。今こそ一人ひとりが「人間であること」の意味について省察してほしいと思います。人間精神の尊厳性を貫いた、貫いている真実に生きる人に目を向け、その方々の作品を通して、命の感動を受け取ってほしいと思います。

#### 今こそ仕切り直しの時

仕組まれたコロナパンデミック恐怖に駆られ、右往左往する一般人  
失われようとしている人間の真実  
勝ちをほくそ笑むデジタル文明  
自己を見失った一般人  
彼らはデジタルテクノロジにしがみつく

デジタルがセルフアイデンティティ

ロボット人間が、あちらにも、こちらにも

デジタル教は人間の自然を亡ぼす  
人間否定の長い、ナガイイ三年間

人間のことばを、神のことばを、取り戻したい

自己の真実  
神の真理

ロゴスに目覚めよう  
魂から生まれる人間のことば  
そこに神の愛が宿る

神の悲しみは深まるばかり

今こそ仕切り直しの時  
己の真実から  
自らをそして人間社会を仕切り直そう

コロナパンデミックの真只中、行動制限が日常化する中で、NHK FM「現代の音楽」から流れるピアノに、わたしは魂を捉えられ、「今、ここにあり」ラジオの前に座り込んでしまいました。それは権代敦彦の作品「きらめく光のとき―祈り When the Light Shines—a prayer」でした。ピアノは中嶋香でした。その中の「Crazily, Crazily, I too aspire to light 狂ったように、狂ったように、私も光を求め」は、金芝河（キムジハ）の詩集「黄土」に魂を揺さぶられ、作曲したのです。「輝かしい光の中に生きることが願わない人がいようか？いない。狂ったように、狂ったように私も光を願う。願ったとてどうすることもできよう!? この暗さをどうすることもできよう!? どうすることもできない。ただ沼のような夜の暗さから光輝くあの慕わしい夜明けに向かって、息をはずませ這い進んで行くのみだ。」（長い暗闇の彼方に「キムジハ」）

権代敦彦は「同じ、光」を願って「この曲を書きました。そして中嶋香（ピアノ）は「同じ、光」を彼方に臨みつつ演奏しました。キムジハの怒りと愛、権代敦彦の「永遠に向かつて放たれる祈り」の音楽、そして全身全霊でピアノに向かい合う中嶋香のパッションがひとつとなつて、わたしの魂で躍動していることが実感されました。

### 新任職員フォローアップ研修会

五月一日(木)に新任職員フォローアップ研修会が開催されました。このフォローアップ研修会も始まってから早三年目。総勢一六名の同期が一堂に集いました。

午前の部は、原慶子理事長によるレクチャーをはじめ、地域福祉と介護予防、栄養、看護についての座学を行い、午後の部は三グループに分かれてグループディスカッションが行われました。これまでの研修や仕事を振り返るほか、一つの物語を通して、自他の意見をすり合わせ考え、自己理解・他者理解についての考えを深め、コミュニケーションを豊かにしていく大切さをご教授いただきました。考え方は三者三様ですが、居住者様を支援する上での方向性は一緒です。より良い支援を行っていく上で、充実したディスカッションを行う事が出来ました。



### 神泉の井戸感謝の集い

小川の貫い水より始まった新生会の歴史において、事業拡大のためには水を確保することが必要不可欠でした。

意を決して複数回にわたり井戸を掘ったところ、全事業を十分に賄う量の清水が与えられました。

水は生きていく上でなくてはなりません。水への感謝の気持ちを忘れぬよう、祈念日である六月二〇日に、神泉の井戸の碑の前にて、調理セクションを中心とした各セクションのスタッフが集まり、感謝の集いが今年も行われました。

自然の恵みへの感謝と新生会に集う人々がこれからも豊富な水に恵まれるよう祈りを込めて行われる大切な行事です。



水への感謝を込めて

### 記事のご紹介 「上毛新聞」より

去る六月一六日、「上毛新聞」に、保険医療機関 新生会診療所管理者鈴木忠医師の記事が掲載されました。

鈴木医師は右記管理者の他、健康ガイドの書籍発行などの事業を展開する公益財団法人群馬健康医学振興会の理事長職を務め、県民の健康増進に尽力しています。

循環器専門医でもある鈴木医師は、この度同財団より発行された健康医学ガイド「七・循環器病」を知る・治す・予防する」の発刊に際し、「循環器病は救急医療を必要と

することが多く、加齢と共に今後ますます患者数が増加することが予想される。循環器病は、介護が必要となる主な原因である。循環器病に関する正しい知識の普及啓発の一端を担えることを願っている。」との挨拶文を同書に寄せています。

新生会診療所では昨年四月、健康管理部を新設。以前に増して居住者の方、スタッフ一人ひとりの健康管理に力点を置いて運営しています。

また、新生会では今年度「健康事業所宣言」(全国健康保険協会 群馬支部)を行いました。これからも居住者の方のもとより、スタッフ及びその家族の健康づくりにより一層注力してまいります。

### 群馬健康医学振興会が出版

### 循環器病分かりやすく

### 症状や治療 画像など使い

県民の健康知識向上のため、啓発や助成事業を行う群馬健康医学振興会(鈴木忠理事長)が循環器病について解説した「循環器病～知る・治す・予防する～」を出版した。日本人の死亡原因の上位を占める心疾患や血管疾患について、画像やイラストを用いて分かりやすくまとめた。



本書は4章構成には系統的に設定されて、循環器科で診療経験は正しい情報にたどり着くことが難しく、第一線で活躍する医師らが執筆し、気になる症状があれば本書を前用して受診につなげてほしい」と時々は「動悸」「胸が痛い」「動悸がする」といった症状が、疑われる病名を、第3章で詳しく、や図解期間に配布した。治療法を説明し、第4章は新型コロナウイルス感染症と心臓疾患について、最新のテーマを取り上げた。鈴木理事長は、心筋梗塞や動脈硬化に起因する疾患が増えていると指摘し、「生活習慣を改善することが大切」と意見を述べた。若年

# 特集！開園記念 コンサート

新生会では今年度よりいつもの日常を取り戻すべく、コロナ禍により制限されていた催事を再開しました。各施設では開園記念日に合わせてコンサートを開催し、心豊かな時間を過ごすことができました。今回は各施設で行われたコンサートをご紹介させていただきます。

まずは五月一〇日の桜が丘二六周年。アコーディオン奏者の熊坂路得子さんとピアニストの岡野勇仁さん、歌手のさとうじゅんこさんをゲストにお迎えし、昼は居住者へ向けて、夜は来賓の方々と職員へ向けての二部構成でコンサートが行われました。当日は素敵なサプライズ企画（本誌文芸欄参照）もありました。



六月一〇日で三五周年を迎えるジョージが丘は六月八日に新生の園・恵泉園・エンジェルホーム居住者の祝会のなかで、クラリネット奏者の小池留美子さんをお迎えしてクラリネットとピアノのソロコンサートが行われました。アットホームな雰囲気の中で皆様それぞれ優雅な時間を楽しまれました。



六月二三日は榛名春光園の六一周年でした。榛名春光園はロビーコンサートと祝会の二部構成でした。居住者である瀧澤隆様のプロデュースにより、「和洋の出会い・響き邦楽器尺八とグラランドハープ」と題し、ストリートオルガン奏者の永谷義篤さん、尺八奏者の難波竹山さん、ハープ奏者の高山聖子さんのコンサートを開催。幅広い楽曲と美しい音色に皆様魅了されました。



開園記念企画ではありませんが、誠の園につながるのがある、アトリエヒロ代表の有阪多佳子さんの後援により嬉しいプレゼント企画。七月六日に津軽三味線奏者の上原梅弦さんのコンサートを開催。当日は日本画家である長谷川遊子さんとのコラボレーション企画でライブペインティングも披露され、圧巻のパフォーマンスに大盛況でした。



そして開園記念コンサートの最後を飾るのは七月一四日の梅香ハイツ四八周年。ヴァイオリニストの篠原郁哉さんとピアニストの種井悠太さんのコンサート。その素晴らしい音色は、梅香ハイツ居住者の皆様の心に染みわたり、時を忘れるほどの癒しの時間となりました。



人と人が直接触れ合い、生の音楽に心躍り、豊かな時間を過ごすことで楽しさと幸せを感じることがきる。これがまさに生きていることを実感する瞬間ではないでしょうか。私たちは失われたそんな時間を取り戻し、生活のなかでの大切な一コマをこれからも守っていこうと強く心に刻んだひと時となりました。

# ホームアマガルト

## 介護付有料老人ホーム 新生の園

### グルメの会

今年も梅雨入りの季節を迎えました。うっとうしい毎日が続きますが気持ちだけはさわやかに過ごしたいです。日本の各地で梅雨入りの知らせが届く六月。親しい人ともなかなか外で会えない時期となりました。ですが衣替えの時期を迎え、人の装いにも夏らしさを感じられるようになりました。

新生の園では五月下旬新型コロナウイルス罹患に見まれ、大変な時期となっていました。イベントの中止、外出規制、面会謝絶等、交流も難しい時間がありました。しかし、全職員、全居住者のご協力もあり、



皆さん満喫。笑顔です。

新型コロナウイルスに打ち勝つことが出来ました。

六月には誕生会も実施出来、本来の日常に戻って来るとも出来てまいりました。六月二日(水)にはグルメの会も再開され、外食をすることも可能となりました。今回のグルメの会では以前もお世話になっていた「鉄板焼きステーキ・磯焼 ぶりつく」にて昼食を召し上がりました。居住者様からは「食事が一番の楽しみよ。」と仰られていました。赤ワインを使ったフランベは皆様とても興奮されていました。ステーキの焼き具合にもこだわり、主食のガリックライスの香りにも笑顔。楽しいひと時を過ごしていただくことが出来ました。常に笑いにあふれ皆様満足のいくグルメの会を実施出来たと感じております。(須田康紀)



フランベ シャッターチャンス

## 健康型有料老人ホーム マリヤ館

### 春のバスハイク

二〇二三年五月二十九日、梅香ハイク春のバスハイクとして「敷島公園 門倉テクノばら園」・「道の駅 まえばし赤城」に行ってきました。マリヤ館からは、一四名の参加でした。

午前中の、前橋市にある「敷島公園 門倉テクノばら園」での散策は、あいにくの雨模様でしたが、公園は空いていましたし、雨に濡れる薔薇は趣があり、とても綺麗でした。参



敷島公園にて



道の駅まえばし赤城

加された皆様は、バラの苗を買うなど楽しんでいました。

その後、この春にオープンしたばかりの、「道の駅 まえばし赤城」に移動して、昼食と買い物時間とさせて頂きました。

今回は、好きなところで自由に食事を選んでいただきました。注文のタッチパネルの使用でつまずいたりしましたが新しい体験を喜んでいただけようです。食事後は、物産販売所でお買い物したり、バームクーヘンのお店や、焼きまんじゅうのお店でスイーツを楽しみました。

今回のバスハイクは雨が降ってしまいました。雨なりに楽しむことが出来ました。

(原 孝洋)

介護付有料老人ホーム  
穂和の園・桜の園

春のバスハイク

今年の気候は早くから暖かくなり、桜や藤の開花も早かったですね。そう、バラも例外ではありませんでした。穂和の園春のバスハイクはホテルランチとバラ園鑑賞、お買い物ツアーを予定していました。敷島公園にあるバラ園へ下見に行った職員は状況を管理人さんに伺いました。すると驚愕のお知らせを聞くのです。

「今がピークですね。品種にもよりますが、その頃にはほとんど終わってますよ」と。バラ園に来て花が無ければ意味が無いと、急遽プランの見直しが行われ、ランチとお買い物はそのままに、第一班は群馬の森内の群馬歴史博物館、第二班は群馬県近代美術館へと行先の変更となりました。



群馬の歴史を深堀☆

いざ当日、両日共にお天気にも恵まれ森を散歩する方、熱心に解説を読む方、作品の一部になって撮影す

る方、歴史や芸術に触れそれぞれ楽しんでいただけたようで職員も安心でした。

たくさん歩いてお腹が空いたところで、ホテルサンダーソンにて中華のランチです。赤城山、利根川、県庁の絶景をバックに、ぎっくりとスリットの入ったチャイナドレスのスタッフさんに見惚れながら「綺麗ね。素敵ね。」話していたかと思えば、エビチリ・ラーメン・酢豚に飲茶と本格中華を前にすれば皆さんお箸が止まりません。



ボリューム満点！

お腹も満たされ最後はお買い物です。以前のバスハイクで好評だった軽井沢のツルヤ。目覚ましい開拓で吉岡町にもツルヤが出来た為、こちらに立ち寄る事に。思い思いにお買い物され、皆さん身も心も大満足のご様子で帰園されました。

春のバラ園は見逃しましたが、秋のバラ園でリベンジ出来たらいいですね。  
(八月一日優花)

軽費老人ホーム  
バルナバ館

お花見

天気にも恵まれ、穏やかな一日。葉桜になってしまいう前にと予定していた日より前にお花見をしました。お団子にお茶、調理室より手作りの甘酒が振まわれ、和気あいあいとした雰囲気の中、ヒマナスターズによるコンサートが開かれ、皆さんで手拍子したり、歌を歌ったりと楽しい一時を過ごしました。



和やかな雰囲気ヒマナスターズ

初夏の芸術発表会  
コロナの影響で延期となっていた芸術発表会が六月二三日に行われました。

町田様は「詩集・梨の花」と「イカは痔の薬」を朗読して下さいまし

た。声のトーンを変えたり、間の取り方など絶妙なバランスは聞きやすく、吸い込まれていきました。

次にヒマナスターズによる演奏は、温かみのある音色で、ロビーを優しく包み込んでくれました。ハーモニカ演奏では二台を器用に使いこなす新川様の姿はとて素敵でした。また、ジャンベによる演奏では曲に合わせリズムを刻む山本様。途中、ハプニングもありましたが職員のダンスも加わり大いに盛り上がりました。

岩井様の独唱は、柔らかく伸び伸びとした歌声にとて魅了されました。

最後は皆さんと一緒に輪唱し、ロビーが優しい歌声と共に包まれ、楽しい時間を一緒に過ごせました。

(手塚友希)



ニッコリ笑顔でハイチーズ



軽費老人ホームA型

榎名春光園

バーベキューに乾杯

父の日、母の日合同祝会として、毎年恒例のバーベキュー大会を開催しました。当日は、初夏とは思えない三〇度越えの暑さの中、職員は設営やらBBQコンロの準備やらで、汗水流しの大奮闘。本格的な炭火焼の肉や魚を焼き上げるウエルダンな職員の勇姿に居住者は釘付けでした。余興は職員がスーパードンサーズとなり、お揃いの衣装で今話題のきつねダンスを披露しました。



居住者が輝ける春光園です

締めくくりはこの日、白寿の誕生日を迎えられた春光園最高齢の小林咲子様を盛大にお祝いしました。職員とのツーショット写真のプレゼントに大喜び！早くも次の一年を見据えてスイッチオン。素敵な思い出とも末永くお元気でいてください。バーベキューに乾杯。(細山教子)

キッチンカー来園

五月末のある日の午後、春光園とご縁がある【はこけん饅頭】のクレールキッチンカーが来園しました。開店前から楽しみにしていた居住者たちで賑わいだし、沢山のメニューを見てはアレコレ考えながら笑顔が溢れていました。クレール生地が饅頭と同じ材料でできており和風なのが特徴的でした。生クリーム系のクレープは大人気でしたが、サラダ系の甘くない照り焼きチキンや手作りのフキみそのクレープも美味しいと人気でした。行列が絶えない二時間半はあっという間で、クレープを食べた皆さんは、お腹も心も幸せいっぱいになりました。(下野弘江)



専門店の味にご満悦!!



美味しそうでしょ〜♪

養護老人ホーム

恵 泉 園

爛漫たり

新型コロナウイルスが5類になり、ようやく長く暗いトンネルから抜け出せるような気がしています。恵泉園では早速止まっていた日々を取り戻すために、春のバスハイイクを四年ぶりに再開しました。

四年も間が空くと、職員や居住者の顔ぶれも変わります。久しぶりだと喜ぶ方もいれば、どんなことをするのかと緊張した面持ちの方もいました。今回はそんな面々の中に、榛名中学校からやるベンチャーとして織田さんも参加いただきました。さて、一行が向かったのは、中之条にあります八ッ場ダム。壮大なスケールに圧倒され、中には足がすくんで



吾妻川を背景にパシャリ

しまう人もいましたが、コンクリートと自然環境との見事な融和に皆さん魅了されていました。しばらく散策した後は近くのレストラン丸岩でお食事。絶品の品々に思わず笑みがこぼれます。近くの「天狗松」から取ったと思われる「てんぐまつ」がおすすめだとか。小休止をはさみつつ、次に一行が向かったのは中之条ガーデンズ。四季折々の花々がいたるところで咲いており、一行の顔にも笑顔の花が咲きます。バラやポピーなどがちょうど見頃で、大満足のバスハイイクとなりました。

長く暗いトンネルの先には、みなさんの笑顔が爛漫と咲いていました。いつまでも咲いてくれることを願いつつ、先ずはこのバスハイイクの余韻に浸ります。(新井溪司)



中之条ガーデンズにて

特別養護老人ホーム  
榛名憩の園

両親に感謝を

榛名憩の園では、居住者の方々と母の日のお祝いをしました。シャンデリアの許へ集い、手作りのどら焼きとお茶をお供に優雅なひと時を楽しんでいただきました。また、ご家族から届いた花束を抱え、にこにこ嬉しそうな笑みを浮かべる姿は、ご子息が、大人になり、たとえ何年たつていようと、ずっと我が子と思う母の顔でした。



うふふ月

また、父の日には男性居住者の方々にお声がけし、甘いどら焼きと紅茶でお祝いしました。写真撮影の際は鮮やかな花束を抱え、「かつこいいだろう」と言わんばかりの凛々しい顔で挑む方もいて、私は普段とのギャップについて笑ってしまいました。



いい笑顔！

さて、私事ではございますが、憩の園に就職してから三カ月が過ぎようとしております。入職して間もない頃は何をすることも時間を要し、心身ともに余裕がありませんでした。しかし、毎日のように母に電話し、支えてもらいました。口下手な父にはメッセージで社会人としてのアドバイスを貰いました。今でも帰省後には自分の拙い部分を伝えて励ましてもらっています。成人し、就職して「大人」の仲間入りを果たしましたが、子から見ると親は幾つになっても親であり逆も然りです。今回、居住者の方々とお祝いしていただいて強く感じました。年に一度は両親に感謝の気持ちを伝えて、またこうしてお互い会えたことを喜び、幸せなひと時を過ごされてはいかがでしょうか。

（渡邊 優）

特別養護老人ホーム  
誠の園

「一粒三〇〇mでおなじみの」

お菓子と言えば、そう「グリコ」を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。おまけ付きのグリコは皆さんの大切な思い出ですよね。

ということでグリコの工場見学に行ってきました。意外にも埼玉県北本市にその工場があるんです。その名も「グリコピア・イースト」。この工場では主にポッキーとプリッツを製造しています。

工場見学前には豪華なお昼を戴きたいと、高級料亭の風格漂う名店「いっちょう」へ。おもいっきり食べてお腹が満たされた後、いざグリコ工場へ。つづく…

工場内へ入るとそこは「おまけ」の展示場。壁一面に飾られた「おまけ」はまさに圧巻の一言。グリコの長い歴史に魅了され、全員で感動。小さな芸術品やあゝ。



美術館のような展示

自動販売機のグリコとは？昭和六年ごろに設置されました。十銭を入れるとお菓子が出てくるのですが、実際に展示室に設置されていましたよ。「なつかし〜」と、見入っていた方もいらつしやいました。

なが〜いポッキーたち。ポッキーの製造ラインでは一つにつながったポッキーを見ることが出来ます。出荷されるまでの沢山の工程が確認でき、技術の進歩にも驚きました。

工場見学の後はお土産ですね。限定品はもちろん、お買い得の品も準備されておりました。

バスハイキングは春と秋に行っていますが、毎回新しい発見があります。誠の園の行事が参加される方たちにとって特別ではない何か「おまけ」のような一日であってほしいと企画をしています。（小野沢剛昌）



懐かしさを感じ皆様真剣！

### 特別養護老人ホーム エンジェルホーム

#### 新型コロナを乗り越えて

六月九日、とうとうエンジェルホームにも新型コロナの波がやってきました。その日のうちに、居住者五名と職員三名の感染が確認され、当初は、収束まで一か月ほどかかると思われました。しかし、結果的には、居住者一〇名と職員四名が感染したものの、エンジェルホームのミラクルパワーコンビ、富田&閑ケアワーカーをはじめとする職員の総力と、新生の園、恵泉園、看護課、食養課、そして何より、エンジェルホームの居住者の皆さまの協力で、一日間での収束となりました。

六月三〇日に予定していたエンジェルホームの開園記念祝会は、新型コロナウイルスが判明し、一旦は中止となりましたが、早期の収束を受け、予定通りの開催となりました。



廊下に積まれた衛生用品



ジャンボリミッキー!!

皆で乾杯をして、おいしいケーキを食べた後は、今年の四月に就任した期待の新人・小野里光ケアワーカーへの質問コーナーです。小野里さんの趣味や好きな食べ物など、根掘り葉掘り聞いた後、職員が昼休みに練習を重ねた『ジャンボリミッキー』を踊ります。アンコールに応じて、怒涛の三回連続のジャンボリミッキーを踊り切り、職員もヘトヘトになったところでお開きとなりました。

エンジェルホームの開園記念祝会は、とてもささやかなものではあります。新型コロナウイルスの騒動を終えてみると、そんなありふれた日常がとてもありがたく感じます。いつも通りの生活が送れることに感謝しながら、これからも居住者の皆さまに少しでも喜んでいただけるケアを目指していきたいと思えます。

(吉川幸二郎)

### HALCC自然学校

#### はるな自然体験クラブの活動

四月二日と二四日のお出かけ自然体験は、新緑の吾妻溪谷と八ッ場ダム周辺を巡る旅と題して、二班合計で四六名が参加されました。十二沢パーキングでバスを降りて青々とした新緑に包まれて約3kmの遊歩道をゆっくりと爽快な気分が散策しました。



八ッ場ダム下まであと300m

二〇二〇年に完成した「八ッ場ダム」に到着して、エレベーターでダムの上上がって壮大な景観を楽しみました。そこからバスに乗って五分程度ダム周辺を車窓からながめ、水陸両用バス・観光船の発着地の八ッ場湖の駅丸岩で昼食です。

午後は、滝沢観音石仏群へ行き、道の駅八ッ場ふるさと館で新鮮野菜、焼き立てパンを購入、締めはソフトクリームで決まり!です。

六月は前半がお散歩自然観察会、後半は二六日と三〇日にお出かけ自然体験で北毛地区の川場村に出かけました。二日間で会員三五名と付き添いスタッフ一六名の総勢五一名が参加しました。

両日共に出発時は雨模様でしたが、花寺・吉祥寺で散策中に雨が上がり、まるで京都や鎌倉に行ったようねと紫陽花や滝に見惚れる方もいました。昼食&買い物は、道の駅川場園プラザで各自自由行動です。

午後は初夏の爽やかな北毛の風を感じながら、迦葉山弥勒寺へ向かいました。日本一大きい天狗面(顔の丈六・五m、鼻の高さ二・八m)があるお寺で日本三大天狗の一つで、その迫力に圧倒されました。

隔月で計画する「お出かけ企画」、次回は八月に涼を求めて実施します。

(稲垣 仁)



迫力満点の天狗面

ホームヘルプ  
ファイリアほほえみ

私達の活力

私達ホームヘルプは、契約をされている五〇名様程のご自宅に伺い、入浴・着替え等お体に直接触れて行う身体介護と、掃除・洗濯・調理といった日常生活の援助を行う生活支援を行っております。その際のエピソードを紹介させていただきます。

『榛名神社方面在住 男性Y様』

週一回の訪問が九六年経ちました。一七年勤務しているSヘルパーが伺っており、一週間の出来事や季節の草花の話、家族の話題など話しているそうです。Sヘルパーが都合で休みの時は「Sさんは具合悪いの？大丈夫？」と心配して下さり、二人の絆はとても強いものとなっていると思います。



これからもずっとお元気で

しかし、Y様が入院することになり、Sヘルパーをはじめ、ホームヘルプスタッフ一同Y様の退院を心待ちにしていました。約二ヶ月後、退院の知らせがあり、ご自宅に戻られ



綺麗に咲きましたね

ることが決まり訪問が再開することになりました。その際にY様が仰って下さった言葉が、「自宅に戻れて良かった。ヘルパーさんが来てくれる限り頑張る。」でした。ご利用者の心の中にヘルパーの存在があるということが本当に有難く、その思いが日々の原動力になっていると思います。

「人の為だと思うと人はものすごい力を発揮出来るんだよ。」という言葉聞いたことがあります。まさにその言葉通り、誰かを思う気持ちが活力になっていると思います。ホームヘルプファイリアほほえみの「ファイリア」はギリシャ語で友愛や支え合い、分かち合いを意味する言葉です。友人のように大切に思うご利用者様の笑顔が見られるように、「何を調理しようかな」「天気が良いからお布団干しをしようかな」「久しぶりの訪問だけど元気にされていたかな」など考えながら、それぞれのヘルパーが今日もご利用者様の顔を思い浮かべながら向かっています。

(清水郁恵)

法人本部

梅もぎ

五月三〇日、三十一日の二日間わたって梅もぎが行われました。新社会ではこの時期の恒例行事となっています。当日は心配されていた雨も上がり、時折心地よい風が吹くなかでの作業となりました。

今年の梅は昨年比べても豊作で、白加賀や紅養老といった梅がたくさん収穫されました。収穫された梅は選果機により大きさごとに分けられ、新生会内の購入を希望する居住者と職員に販売された他、近くの農協に出荷されました。

梅の収穫を通して普段はあまり顔を合わせる機会のない職員同士の交流も施設の垣根を越えてみられました。各施設の職員で協力して行う梅の収穫は達成感があり、とても有意義な時間となりました。(大西花奈)



美味しそうな梅が穫れました！

ふれあい花壇花苗植え込み



環境美化と緑化啓発に貢献☆

新生会が「高崎市花いっぱいふれあい花壇原材料助成事業」に申請し始めて今年で一三年目となります。

年に二回、春と秋に申請し、長らく四〇メートルの沿道を彩ってきたこの花壇ですが、この二年は居住者の有志の皆さまにもご協力いただきながら、田根園芸療法士を始め、保全係のスタッフ総出で花苗の植え込みを行っております。

今春は、マリーゴールド四五四鉢を七人で二時間かけて植え込みました。屈んで、窮屈な体勢での長時間作業…心配する職員をよそに、お手伝いいただいた居住者の皆さまからは、「これだけの規模の花苗植え込みはなかなかできないから楽しい」との頼もしいお言葉。ご協力いただきまして、ありがとうございました。

(坂本 直)

### 睦会観桜会 そして 音楽祭へ

二〇二三年度、四年ぶりに観桜会の開催です。会場はアルカーサル迎賓館。観桜会は新任職員の歓迎、そして会員の交流を目的とした会でございます。

コロナの影響で四年間開催ができなかったので、参加していただく皆様に楽しんでいただけるよう、過去の資料を見ながら手探りで準備をいたしました。睦会役員・幹事で協力しながら作り上げて行きました。

当日は、新任職員のみんなを大歓迎のムードでお迎えいたします。みんなで乾杯できることに感謝しながら、四年間溜まったエネルギーを放出です。

アルコールも久々に解禁というところで、会場も徐々に温まってまいりました。さて、観桜会といえば、新任職員、睦会幹事・役員によるアトラクションが一つのお楽しみイベントでございます。

もちろん今年も行わせていただきます。今年は趣向を変えて、新任職員、睦会幹事・役員が一斉にステージに立たせていただきます。今年

ダンスバトルをテーマに、プロ野球「北海道日本ハムファイターズ」で有名なキツネダンスを披露させていただきます。コスチュームもバッチリ整え、いざダンスバトル!!結果は：キレのある踊りを見せた新任職員勝利でございます。最後は会場全体を巻き込んでみんなでキツネダンスを行い、あつという間に楽しい会が終了となりました。

皆様のおかげで無事に観桜会を執り行うことができました。睦会の全会員、アルカーサル迎賓館スタッフの皆様へ感謝いたします。

ゲットバック!今後も様々なことにチャレンジしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願致します。  
(睦会会長 野澤慶太)



新任者と役員・幹事大集合!

### カップル紹介



新郎 町田敏貴さん 新婦 綾佳さん



恵泉園  
サブチーフ  
大井 匠さん

ラーメン、酒、音楽、ゲーム、サッカー...これらで構成されている人物を皆さんはご存じだろうか。今回はそんな恵泉園のサブチーフである大井匠さんを紹介させていただきます。プライベートルドでは手広く趣味を謳歌し、自由奔放な彼だが、いざ仕事にな

ると目つきが変わり、細かなところまで気を配り、一つでも気になることがあれば恵泉園の杉下右京と言わんばかりの「ひとつだけよろしいですか?」。言われた方は思わずドキッとしてしまうが、その細かな仕事ぶりが質の高いケアを提供できる所

### もうひとりの私<sup>123</sup>

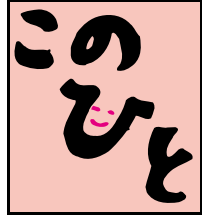
以だらう。在歴は七年を迎え、三六歳で新生会の門をたく前は、さまざまな場所でキャリアを積んできた。場数を踏んで得た経験と程よい加減さに、持ち前のルックスが加わることで職員からは羨望の眼差しを浴び、あるところではファンクラブもあるのかなとか。

そんな順風満帆な彼だが、最近はいい事ばかりではないようで、暴飲暴食が祟って痛い目を見ているそう。一時は自粛期間を経て復調してきたが、そろそろいいだろうとしれっと再開したところ、また痛い目を見ている。懲りずにやるあたり、きつとそこに彼の原動力となる何かがあるに違いない。

とにかく平和と自由を愛する彼。今後とも公私ともに更なる充実を図りつつ、未永く新生会とお付き合いいただきたい。

### 「誕生日誌」

- ・富田 遥大 (とみた はる) くん
- ・富田 椋久 (とみた りく) くん  
令和5年4月21日生まれ  
(エンジェルホーム 富田 優太さん・里恵さん 第1子)
- ・富田 凧翔 (とみた なぎと) くん  
令和5年6月8日生まれ  
(榛名憩の園 富田 敦貴さん 第1子)



マリヤ館  
奥石 勇さん



甲府で幼少期から高校生まで過ごされ、大学で東京に出られて以来牧師の道を歩まれて来ました。

した。キリスト教との出会いはお母さまに端を発し、奥石さんのどんな学びの精神はお母様譲りでした。

明治大学経済学部を置き、志本市にありました聖公会の学生寮で過ごされました。卒業を前にして進路を決めるにあたり、学生寮の大久保主教から深い影響を受け神学校に進みましたが、神学校が休校になり再び大久保主教の元を訪れ、立教大学大学院修士課程に進む決断をして終了されました。

一九七五年四月、北関東教区の姉妹教区でありました中央ペンシルバニア教区との聖職交換プログラムに参加するため、身重の奥様を残し単身旅立ちました。その年の九月に神学校のパウロス司祭から「トロント大学の大学院に入学が決まっているのですぐに来るように」とのお招きを受け、すぐさまトロントに向かいました。翌年、トロントでの前期の終了と期を同じくして奥様と息子さんが合流されました。再び中央ペンシルバニア教区に戻りそこで司祭接

手を授かり、ペンシルバニア州立大学の夏学期のチャプレンとして奉仕され、九月には再びトロントに戻り、一九七七年四月までトロントで学ばれました。

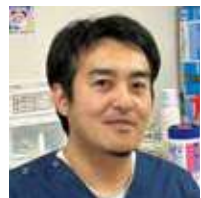
帰国後すぐに高崎聖公会、一九八五年には浦和諸聖徒教会の牧師を務めながら、日本聖公会管区事務所総主事を二〇〇二年まで兼務されました。その後、今は堂々たる礼拝堂を持つ志木聖母教会の牧師をしながら毛呂山聖霊教会も兼務、さらに幼稚園の園長も務めるといふ多忙な日々を送られました。六八歳で川越教会に移り定年までの二年間勤めました。ある信徒の方から「三年も経たないのに辞めるとは何事だ」と言われ、一年奉公されてからマリヤ館に入居されました。

忘れられない出会いは沢山ありますが、とりわけ中央ペンシルバニア教区やトロントで多くの出会いがありました。最高の出会いと言えは奥様です。奥石さんが大学院入学前に立教大学のキリスト教育研究所主催による人間関係訓練のプログラムで出会いました。お二人は同じグループに属し、グループのメンバーに恵まれ最高のご縁に繋がりました。

最後に、自分を見つめることが大切であると現在の心境を語って下さいました。今でも毎週教会で礼拝を司式して下さい、大切な祈りを捧げて下さいます。この中には新生会のための祈りも当然含まれています。ご奉仕に心より感謝申し上げます。



群馬大学医学部附属病院 歯科口腔・顎顔面外科  
小川 将 歯科医師



爽やかな笑顔と甘いマスク、青春時代は野球に熱中しポジションは四番でサードと長嶋茂雄を彷彿とさせる。そんな歯科医師界の「ミスター」は、群馬大学医学部附属病院の歯科医師である小川将先生。毎週火曜日に榛名荘病院でも診察をされ、昨年からは新生会ホームの一つである誠の園へも口腔ケアチームとして歯科衛生士と訪問診療をしてくださっています。

小川先生は県都前橋で生まれ、群馬大学附属小・中学校を経て前橋高等学校へ進学。昔から手先が器用であつたことや誰かの助けになる仕事をしたという思いから歯科医師の道を目指し福岡県の九州歯科大学へ進み、歯科医師免許を取得され、現在は群馬大学医学部附属病院で勤務されています。初めて担当した患者の義歯を作成した際にとっても喜んでいただいたことを昨日のように思い出そうです。いつまでも初心を忘れず常に患者さんの心に寄り添い、真摯に向き合い、経験と研鑽を積み毎日、小川先生は年間六〇件の口腔が

んの手術を担当され、群馬県でも数名しかいない口腔外科専門医の資格を持つスペシャリストです。そのため口腔がんにも悩む患者の命を救う第一者であり、術後の治療のため県内外から小川医師のもとを訪ねる患者は後を絶ちません。

誠の園へ訪問して下さり一年が経過しました。居住者のケアだけではなく、職員への口腔ケア指導も担ってくださっていますが、訪問当初と比較すると今ではアドバイスが不要なほどケアが行き届いているとお言葉をいただきました。それは小川先生の熱意ある指導の賜物。昨桜が丘スタッフを対象に口腔ケア研修会を開催し、貴重な学習の時間もいただきました。

口腔ケアにおいて最も重要なことは毎日の基本ケア。歯科医師だけではなく、ケアスタッフとのチームワークで不断の努力を積み重ねていくことが大事と小川先生は話されます。

これからも患者のニーズに心を傾け、一日でも長く口から食べる喜びを感じていただきたいと笑顔でお話しくださいました。

文 芸

今年の桜が丘開園記念コンサートでのサプライズ。誠の園にお住いの天野文子様が原慶子理事長の詩『赤い風船』に感銘を受けられました。二人の気持ちに寄り添ってくださったアコーディオン奏者の熊坂路得子さんが曲を、バルナバ館在住の湯浅信之様が英訳をしてくださりました。天野様の想いが波紋のように広がります。ステキな曲の披露に会場が暖かい空気に包まれました。

The Red Balloon

Composed in the spring of 2018  
By Keiko Hara

A heavy load  
On her back,  
She has been walking for miles  
On a rough bumpy road,  
When suddenly in front of her appears  
A white precipice ---  
The utter silence  
Of her heart oppresses her---  
All her strength and courage gone  
She is ready to collapse ---  
When a red balloon comes  
Softly flying through the clouds.  
It mildly smiles  
At her  
And gently speaks ---  
A blessing from heaven.  
God is timely  
Whenever you need him.

Now she sits in the breezy grassland  
With the red balloon by her side.  
She is praying ---  
God looks down on her with tenderness.  
Such indeed is

God's Love  
(English translation by Nobuyuki Yuasa)



二〇一八年 春の光の中で

原慶子 詩書

赤い風船

重い荷物を  
背中に負い  
ガタガタ道を  
歩き続ける  
前方に立ちはだかる  
白い壁  
魂の沈黙に  
耐えられず  
情も根もつき果て  
倒れんばかりに  
なつたとき  
赤い風船  
雲間を通りぬけ  
ほほえんでいる  
彼女に語りかける  
天の福  
神はいつもタイムリーに  
現われる  
風そよぐ草原で  
赤いふうせん傍らに  
祈る彼女を慈しむ  
神の愛

俳句

衣脱ぎ伸びて高々竹の子や  
榛名から平野果てなし雲の峰  
三浦 修  
出掛けます見知らぬ町へ春の旅  
漁火を浜辺に見せる沖の舟  
水無月や蛙の歌の演奏会  
瀧澤 隆  
おはようとまたお会いでき友笑ひ  
ボケはじめ大歩危小歩危つなわたり

短歌

日の出背に  
うえのはら橋渡つて見ると  
月朧すかしげに微笑めり  
丸山 輝雄  
川柳  
倉吉市その名のいわれ暮し良し  
引退後一人暮らしは寂しけり  
ベビーカー子ども喜び親なごむ  
オーサム



ケアに生きる  
(149回)  
榎名 園 強  
榎名 園 食養課チーフ

私の所属する榎名憩の園食養課は管理栄養士、調理師の計六名で日々の業務を行っています。業務の目標としては、①利用者一人一人の身体状況や嗜好に合わせバランスの良い食事提供をす

職員としてチームワークを大切に、各課と連携、協力し合うことにより利用者にとってよいサービスになるように努める。⑤勉強会、研修会などへ参加により、新しい知識を取り入れ業務への反映に努める。以上のことを大きな柱として業務に努めています。食事を提供していても励みになるのは利用者からの美味しかったの一言です。食事を通して健康を保つことはもちろん、楽しみの一つになって頂ければ幸いです。これからも利用者の笑顔を引き出せるように様々な情報を得て見識を深め、食養課一体となって業務に努めていきたいと思えます。

新生日誌

〔4月〕

- 3日 新入職員辞令交付式
- 6日 お散歩自然観察会
- 10日 お散歩自然観察会
- 13日 睦会第一回総会
- 15日 新生会後援会・新生会施設代表者懇親会
- 20日 春の道路愛護清掃
- 21日 お出かけ自然体験「新緑の吾妻渓谷と八ッ場ダムを巡る旅」第一班
- 24日 お出かけ自然体験「新緑の吾妻渓谷と八ッ場ダムを巡る旅」第二班
- 28日 睦会観桜会 於…アルカーサル迎賓館
- 2日 就職説明会
- 8日 お散歩自然観察会
- 10日 就職説明会
- 11日 桜が丘三ホーム開園26周年記念日
- 16日 フォローアップ研修会
- 17日 ハローワーク高崎「求人者マイページ基本操作」セミナー（ハローワーク高崎 1名出席）
- 22日 お散歩自然観察会
- 26日 高崎市やるベンチャーウィーク（高崎市立榛名中学

〔5月〕

- 1日 監事監査
- 6日 お散歩自然観察会
- 7日 共愛学園花の日訪問
- 9日 2023年度第一回理事会
- 10日 ジョージが丘開園35周年記念日
- 13日 お散歩自然観察会
- 14日 評議員選任・解任委員会
- 30日 お散歩自然観察会
- 30日 梅の収穫
- 29日 令和6年3月新規学校卒業予定者を採用予定の事業者向け求人説明会（Gメッセ群馬 1名出席）
- 23日 職員定期健康診断
- 25日 インターシップ1名受入れ（誠の園）
- 29日 令和6年3月新規学校卒業予定者を採用予定の事業者向け求人説明会（Gメッセ群馬 1名出席）

〔6月〕

- 1日 監事監査
- 6日 お散歩自然観察会
- 7日 共愛学園花の日訪問
- 9日 2023年度第一回理事会
- 10日 ジョージが丘開園35周年記念日
- 13日 お散歩自然観察会
- 14日 評議員選任・解任委員会
- 30日 お散歩自然観察会
- 30日 梅の収穫
- 29日 令和6年3月新規学校卒業予定者を採用予定の事業者向け求人説明会（Gメッセ群馬 1名出席）
- 23日 職員定期健康診断
- 25日 インターシップ1名受入れ（誠の園）
- 29日 令和6年3月新規学校卒業予定者を採用予定の事業者向け求人説明会（Gメッセ群馬 1名出席）

校の生徒を受入れ（恵泉園・榛名憩の園・誠の園）

受入れ 8名来会

外壁塗装支援

— 新生会後援会便り —

本格的な夏を迎えました。皆様から温かいお力添えいただきまして、誠にありがとうございます。今後も新生会の諸事業に後援会を通して皆様のご協力ご支援をお願い申し上げます。

HALCセンター建設のための特別募金累計 16,767,128円（2023年3月末日現在）

新生会後援会加入のご案内

- 個人会員 年間会費 1口 1,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。
- 法人会員 年間会費 1口 10,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。

募金の結果や使途につきましては小冊子「感謝録」にて毎年報告させていただきます。

寄付方法

郵便局からの振込み 振込口座 00160-6-48594  
加入者名 新生会後援会  
銀行からの振込み 群馬銀行室田支店普通預金0075469  
名義 新生会後援会会長 中澤宏則

所得税等の減免手続きをご希望の方は、ご寄付くださる際にその旨を申し出てください。社会福祉法人新生会より寄付金領収書をお送り致します。

ホームページ <http://www.sinseikai.org/>  
E-mail [human-office@sinseikai.org](mailto:human-office@sinseikai.org)

編集後記

先進七か国首脳会議が広島で開催されて記憶に新しいと思います。そもそも先進七か国首脳会議とは、簡単に言うとその時々には起きている国際情勢について話し合う場のことを言います。今回の広島サミットでは、ロシアの武力によるウクライナ侵略という背景から、世界の恒久平和を希求する広島が選ばれました。近年では招待国としてさまざまな国々を招待しています。広島サミットにおいては、戦禍のうちにウクライナも招待されました。一方で、同じく戦禍のうちにウクライナは呼ばれていません。どちらかの意見を聞き、他は聞き入れない姿勢というのは、果たして正しいと言えるのでしょうか。

あちら立てればこちらが立たぬ。どちらも納得のいく内容というのは難しいものです。一辺倒の考えにならない、双方の意見を汲んだ行動が日本に求められています。

（新井溪可）

表紙の写真

誓いの碑の前で

新生 第46巻 夏号  
発行日 令和五年七月二〇日  
編集兼 社会福祉法人新生会  
発行人 原慶子  
〒370-3347 群馬県高崎市  
中室田町五九八三  
電話 〇二七三七四 一五一一